

丘陵部をぬって流れる河川沿いの低地に人が住みついてきた横浜では、鉄道もまたこの低地を走る。そして横浜を中心として放射状に広がる形態になっている。急増する本市の人口は、近郊の鉄道線沿いからさらにには丘陵部へとおりついており、それは郊外の駅の乗車人員の激増となって表わされている。また、東京へ通勤する人が多いということから、朝のラッシュアワーには、近郊から都心部へ向うにつれて各線の通過人員は増加し続け、乗車効率も増大する。とくに、沿線の人口急増にもかかわらずいま単線の横浜線（小机以西）は混雑がひどく、複線化が焦眉の急となっている。

一方、湘南・鎌倉方面から東京へ向う大量の通過客を運ぶ国鉄東海道線

横須賀線と、横浜へ集まるその他の国鉄・私鉄各線の乗客が乗換となるため

横浜駅での乗降客と相まって、横浜駅は市内屈指の乗降客をさばくことになり、その混雑ぶりは現有施設の限界にきている。

横浜駅でしか各線が連絡しない本市の鉄道網の形態が再検討されねば

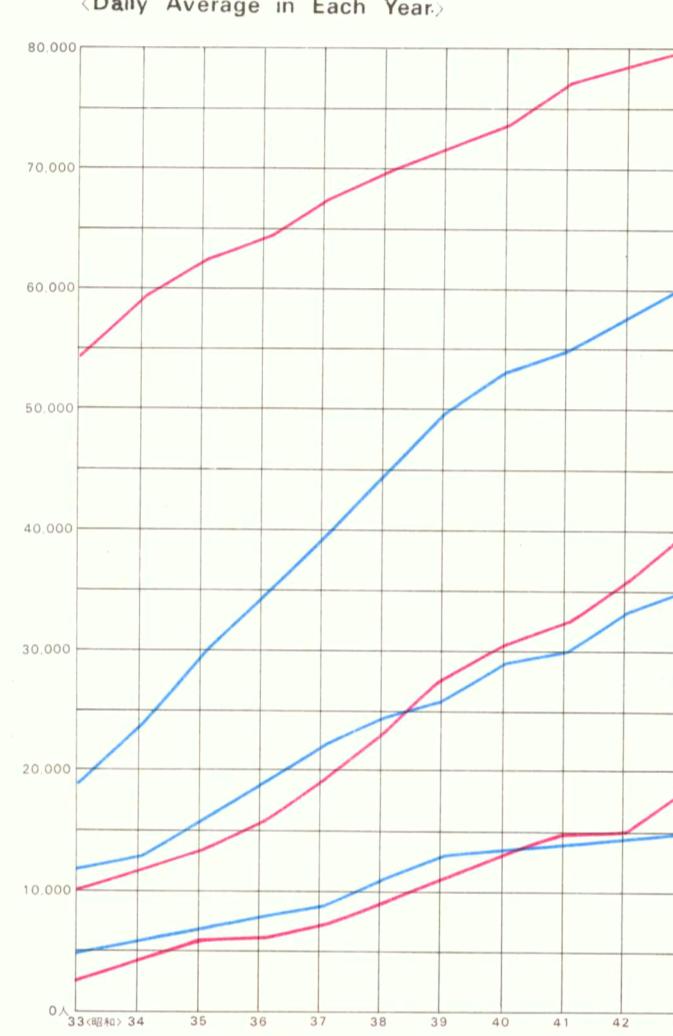
ならない時期にちがいないといえよう。

近郊の開発に伴なって新線の建設も盛んだ。その中で本市の

高速鉄道（地下鉄）は、近郊部と都心部とを結んで都心部を強化する

とともに全市の一体化をはかるとするもので、現在、緊急整備区間で工事が進んでいる。

主要駅における乗客数推移（各年度1日平均）
Passengers in Main Railway Stations
Daily Average in Each Year

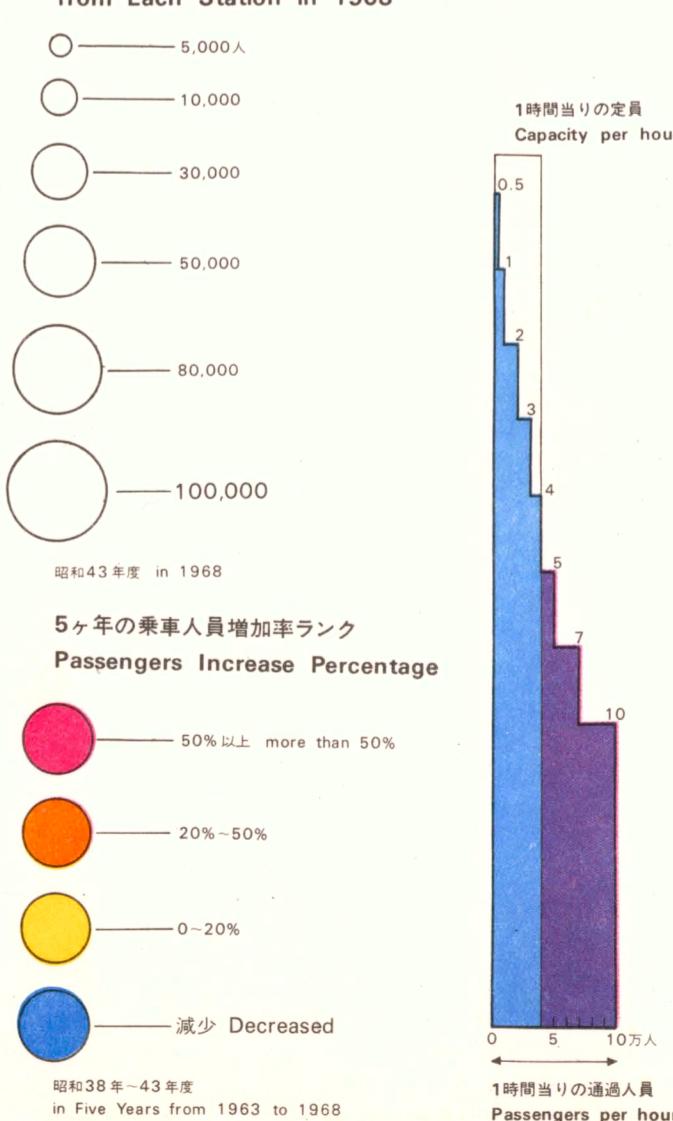


On the other hand, new railways are being constructed keeping pace with development of the suburbs. Among them, the construction of a municipal subway to link the suburbs with the midtown area is in progress in some rapid priority sections for the purpose of integrating the whole city as well as solidifying its heart.

市内の鉄道建設状況 Railway Construction Situation in the City

路線名	区間及び距離	完成・予定年月	備考
国鉄根岸線	桜木町 - 碧子 7.7km	39.5	
国鉄横浜線	碧子 - 洋光台 4.6km	45.3	
国鉄横浜線	東神奈川 - 小机 8km	43.3	複線化
東急田園都市線	青口 (川崎市) - 長津田 14.2km (横浜市域内 9.2km)	41.4	
東急田園都市線	長津田 - つゝ野 (町田市) 1.1km	43.4	(横浜市域内 1.0km)
東急子供の国線	長津田 - 子供の国 3.7km	42.4	
国鉄横浜岸線	洋光台 - 大船 碧見 6.9km	47.10	
国鉄東海道線	市域内、大船 碧見 29.5km		三複線化
相模鉄道新線	二俣川 - 東町 5.9km	46.6	第1期分
市営高架鉄道1	上大岡 - 尾上町 5.7km	46.3	
市営高架鉄道3	山下町 - 横浜 5.1km	48.3	

各駅1日平均乗車数
Average Daily Passengers from Each Station in 1968



5年間の乗車人員増加率ランク
Passenger Increase Percentage

